



南町小だより

つよく かしく あたたかく

平成28年9月 1日

校長 福田 俊彦

頑張りが届くとき

校長 福田 俊彦

リオデジャネイロでのオリンピックが終わり、8日からはパラリンピックが開催されます。子供たちは、今回のオリンピック・パラリンピックを通して、いろいろなことを考え、感じることはないかと思っています。次回は、4年後の東京です。一人一人の子供が、東京オリンピック・パラリンピックに多様な関わりを見付け、そこに夢や希望をもてることができるようになればと願っています。

さて、自然、歴史、文化、そして、それらを守り引き継いでいる方々との関わりをもつことができた夏休みが、子供たちそれぞれにあったのではないのでしょうか。2学期の始業式では、次のような話をしました。

「以前、イチロー選手が4000本安打を達成した話をしました。その時のイチロー選手の言葉です。『4000本のヒットを打つかげに、8000回の悔しい思い、失敗がありました。』今年、そのイチロー選手がアメリカだけで3000本のヒットを打ち、今もその記録を伸ばし続けています。3000本のヒットを打ったイチロー選手の言葉です。『自分が努力を重ね何かをすることで、多くの人が喜んでくれることにうれしさを感じます。』みなさんが努力し、頑張る続けることで、周りの人が喜んでくれることは、みなさんの身近にもたくさんあります。みなさんが一生懸命に取り組む姿に心を動かされることがあります。2学期の目標を決め、そこに向かっていくみなさんは、周りに喜びを届けることができるのです。期待しています。」

子供たちは生活を通して、頑張ることを経験します。その経験が、自己の成長を促していきます。人は、そこに自分の役割があり、その役割を必要とされ、認められることで、やりがいを感じます。他者から認められることを目標としているのではなく、その行動が結果として他者の喜びとなり、自己の成長につながります。イチロー選手の言葉にあるように、自分の努力が、周りの人の喜びとなることに、子供たちが気付けるようにすることが、大人の役割でもあると考えています。

2学期は、日々の学校生活のもと、運動会、展覧会、社会科見学、移動教室（5年）などの行事もあります。全ての場面には一人一人の役割があります。そして、その姿が周りに元気を届けます。今後とも日々の学校生活や学校行事での子供の姿をみんなの子供の姿として見守っていただけますようお願いをいたします。